

東成瀬 図書館だより

〒019-0801

秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字上野 8-1

2022.6月号 No.83

発行

東成瀬公民館図書室

TEL 0182-38-8711

FAX 0182-38-8712

E-mail narusejidoukan@carol.ocn.ne.jp

☆令和4年7月の特集&新着案内 〈一般書〉

◎ 「笑う門には福来たる！」

ボケないための笑いヨガ

高田 佳子

100万回死んだねこ

福井県立図書館

芝浜 ~落語小説集~

山本 一力

阿佐ヶ谷姉妹ののほほんふたり暮らし

阿佐ヶ谷姉妹

宇宙一ずぼら絶品めし

だれウマ

基本からわかる男の料理術

辻調理師専門学校

修造流・逆転の発想法

松岡 修造

食べるとはどういうことか

藤原 辰史

食べ物が足りない!

井出 留美

〈児童書〉

◎ 「からだのふしぎ絵本」

こころとしんぞう

中川 ひろたか

ほね・ホネ・がいこつ!

中川 ひろたか

ウイルスのひみつ

コレクティブ・エリヤス・エドウカン

きずのひみつ

マリオナ・トロサ・システレ

はなみずのひみつ

マリオナ・トロサ・システレ

ことばたんていきょうふのばらばらじけん

平田 昌弘

なつのはやしのいいにおい

たての ひろし

はっぱ きらきら

多田 多恵子

昔の道具で郷土ごはん

農文協 編

◇今月のオススメの一冊◇

『笑いで健康長寿』

橋本 慶男 / 著



楽しいから笑うのではなく笑うから楽しくなる! 健康であることの目安は、何だと思えますか?それは、笑えるかどうかです。不健康になると笑顔が消えて、人の話も聞けなくなるからです。笑いは神様からのプレゼント。認知症予防で笑顔の百寿者に。

※ 電話予約もできますので、お気軽にお尋ねください

『絵本 はたらく細胞』

ばいきん vs. 白血球たちの大血戦!

清水 茜 / 原作



クールな白血球、道に迷いやすい赤血球、かわいけれど頼りになる血小板...私たちの体の中には味方がいっぱい。「細胞たちの大きさは?」「手洗いで新型コロナウイルスに対抗しよう」など、体のふしぎが学べる絵本の第1弾!

☆図書室利用案内☆

7月の休館日

7/3(日) 17日(日)
18日(祝) 31日(日)

開館時間

午前9時30分~午後5時30分

休館日

・第1、3、5日曜日 ・祝祭日
・年末年始

図書の貸出

10冊まで

視聴覚資料

3点まで (DVD・CD など)

貸出期間

3週間

★休館日の本の返却はブックポストへお願いします★



わたしのとっておきの一冊

つくしんぼ会員 杉山 アオイ さん からのオススメ



『走ることに ついて語るときに 僕の語ること』

村上 春樹 / 著

文春文庫

20代の頃、村上春樹が大好きで読んでいた。特に好きなのは「風の歌を聴け」「羊をめぐる冒険」「ダンス・ダンス・ダンス」。若い頃の孤独な気持ちが、登場人物に共感したのだと思う。東成瀬に来て畑を耕したり、鶏を飼ったりして暮らすようになってからは、前ほどはピンとこなくなってしまう。それでも新しい小説が出れば読んでいた。村上春樹はベストセラー作家だが、私の周りで読んでいる人はあまりいない。私の唯一の本友達は、樺台の本間商店さん。「1Q84」も本間さんに貸してもらって読んだものだ。

「走ることについて語る時に僕の語ること」は村上春樹が自分の小説家人生とランナー人生を重ねて語ったエッセイ。自分は生まれながらの才能に恵まれた小説家ではない。だからノミを手にとコツコツと岩盤を割り、創作の水源に掘り下げていかないとイケない。でもこういう生活を続けていると、水脈を探り当て、固い岩盤に穴をあけていくことが技術的にも体力的にもできるようになってくる。こんなことを自分の走る暮らしと重ねて書いている。こういう創作の秘密みたいなものを見せてもらうのは興味深い。

それにしても、新しい小説は書いているのかな？久々に長編小説も読みたくなってきたな…。

【お知らせ】

農業編

雑誌のリサイクルやっています！

図書室入口脇に、農業関連の雑誌「現代農業」「季刊地域」「のらのら」のリサイクルコーナーを設けています。ご自由にお持ちください。



SDGsについて学びました

6月の環境月間にちなんで児童書の展示内容にあわせ、『こどもSDGs教室』を実施しました。“地球の未来を考える”をテーマに、絵本やクイズを通して、今、地球のためにひとりひとりができることを考えるよい機会になりました。



読みかたりグループ



『つくしんぼ』コーナー

おはなし会は
7月2日(土)
10:30~11:00
です

会員のつばやき

会員 柴田 多鶴子さん

もう十数年前になるでしょうか、読み聞かせや朗読で広く活躍されているT氏の学習会がありました。今までに何度も氏の学習会には参加させて頂いていますが、その学習会で伺ったお話が忘れられません。「この人にだけは、つまらない絵本を選ぶなあ、とか、そんな解釈するの？などどガツガツされたくない…そんな緊張感のある友人を一人でいいから持つといい」と。その言葉に100%共感し、ワクワクしたことを今でも鮮明に覚えています。私にもたった一人、そんな存在の友人がいるからです。

彼女の絵本に対する知識、感性、選書力、何をとっても私の憧れとするところ。でも決して憧れだけの盲信ではなく、常に私の絵本愛を刺激してくれる大切な存在です。そしてT氏の言葉のように、彼女にがっかりされないような深みと誠実さのある絵本愛好者でありたいと思っています。そんな彼女から紹介された一冊の本を紹介します。読んだ瞬間、「こんな絵本を待っていた！」からだ中が、こころ中が嬉しく、誰にも教えたくない、自分の「秘蔵」にしておきたい！とさえ思いました。後でこの絵本が受賞したドウマゴ賞選者の江國香織さんが同じことを思っていたのだと知りました。読み終わると、まるで品の良い爽やかな風が吹いてくるようです。それでいて自分の生き方さえも問われるような深さのある絵本です。

この絵本は、自分の生き方に目を向けさせ、私の歩いてきた長い道のりを、人との関わり方、寄り添い方を、この先の人生のステージをどう生きたいか？どんな価値観を大事にしたいか？等々問ってきます。と言っても決して重い絵本ではありません。読後は、後味の良い映画を観た時のように爽やかです。絵自体も、それをちゃんと語ってくれているのも嬉しい。

この絵本に出会わせてくれた友人に感謝しつつ、「いだしども、紹介しちゃうっ！」とここに載せます。



「海のアトリエ」
堀川理万子 作
偕成社